

I H30 学校研究の歩み

新学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が必要とされている。そこで、本校では、資質・能力にスポットを当て、「教科横断」「情報活用」「課題発見」の3つのプロジェクトチームを立ち上げ、それぞれの資質・能力を育むための研究（アドバンスト・ラーニング）を進めることとした。

しかし、研究を進める中で、教科横断に対するとらえ方について再考する必要性が出てきた。そこで、付けたい汎用的な資質・能力を「対話」「情報活用」「課題発見」と変更し、それらを教科等横断的な視点でとらえていくことにした。さらに、日々の授業を中心とした本校の学びの進め方を「羽咋小授業スタイル」として、児童と教師が共有し、見える化につなげた。

羽咋小授業スタイル + **教科等横断的な視点** = **アドバンスト・ラーニング**

【アドバンスト・ラーニングとは…】（advance：前進，進出，先進）

アドバンスト・ラーニングとは、児童が能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法であるアクティブ・ラーニングを**進展させていく**ことを目指した、羽咋小が独自に作り出した造語である。新学習指導要領の要点にスポットを当てることで、児童が学びを通して、自らの生活につなげて、**自分に必要な課題や目標について、自ら進んで探究する資質・能力を育てる学習方法**として考えている。

成果としては、アドバンスト・ラーニングの構築に向けた定義付けや共通実践が実現し、汎用的な資質・能力を育むことができた。

	児童に身に付いた力
対話	◎ 聞き返し、問い返しを児童同士が行いながら、課題解決に向けて学び合う力 ◎ 必要に応じて、自発的に対話による学び合いを進める力
情報活用	◎ ICT機器を使いこなす力 ◎ ICT機器やホワイトボードを使い、適した操作や表現を判断しながら説明する力
課題発見	◎ 見通しをもちながら学習を展開していく力 ◎ 困り感をもとに、自ら課題を作り出す力

課題としては、児童に付けていきたい「対話」「情報活用」「課題発見」の資質・能力の具体的な姿が、まだまだあるということである。そして、それらがある単元だけで育むのではなく、**段階的に且つ横断的に高めていく**ことが必要であることに気付き、各教科や学校行事等のつながりを意識しながら、**広い視野**で汎用的な資質・能力の育成に取り組んでいきたいと思うようになった。

II 今年度の研究の方向性について

昨年度の研究を受けて、「対話」「情報活用」「課題発見」の3つの汎用的な資質・能力をさらに育むためのアドバンスト・ラーニングを推進していく。そのために取り入れていくのが、**カリキュラム・マネジメント**である。

授業を通して、本校の重点としている資質・能力を**育成**しながら、教科のねらい達成を目指していく。さらに、身に付いた資質・能力を**発揮**しながら、教科のねらい達成を目指していく。その仕組みを教科等横断的にとらえるためのカリキュラムを作成していくようにする。また、**実生活や実社会の課題、学校行事や児童会行事の進展に向けたアイデア**においても考えることができるように、児童と教師が一体となって取り組んでいけるようにする。

このように、汎用的な資質・能力を教科や各種活動の年間計画に位置付け、本校オリジナルの「**ハピネス・カリキュラム**」の作成に向けた研究を進めていく。このカリキュラムを展開させることで、自ら進んで探究する児童が育ち、予測困難な時代にも対応可能な人材につながっていくと考える。

III 研究主題・副題・仮説について

研究主題	「自ら進んで探究する児童の育成」
副題	～ 資質・能力を育てるハピネス・カリキュラムをつくる ～

【研究仮説】

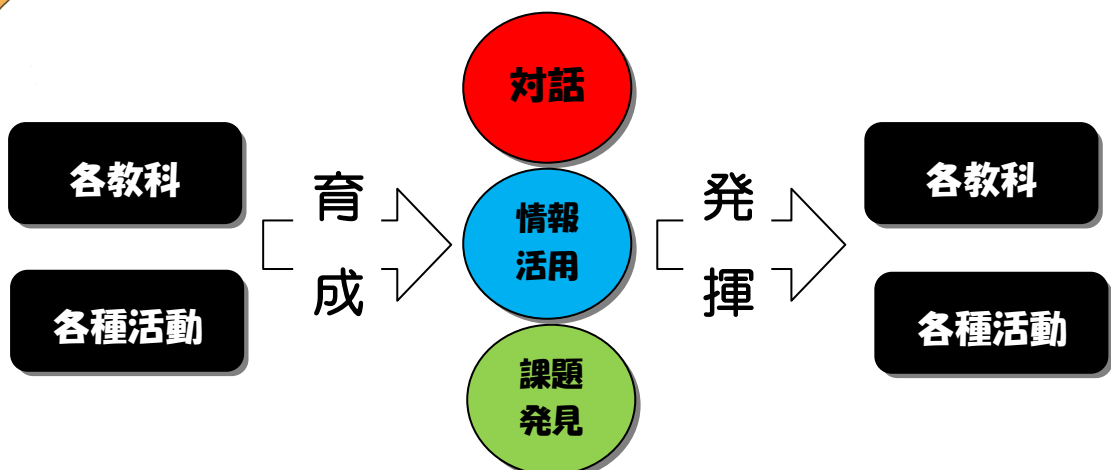
教科等横断的な視点で、汎用的な資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）を養い、それらを年間指導計画や実生活等で発揮していくことで、学びの力が高まり、困難な課題や状況に出会っても、進んで探究しながら解決していく児童を育成することができるであろう。

【ハピネス・カリキュラムとは…】

ハピネス・カリキュラムとは、各教科やそれ以外の各種活動等で育成した3つの資質・能力（対話、情報活用、課題）を、別の各教科やそれ以外の各種活動等で発揮していくことのできるカリキュラムのことである。児童が学びを通して、自らの生活につなげて、**自分に必要な課題や目標について、自ら進んで探究するシステム**として考えている。



【ハピネス・カリキュラムのイメージ】



IV 研究の具体的内容について

1 学びの力を高める授業づくり

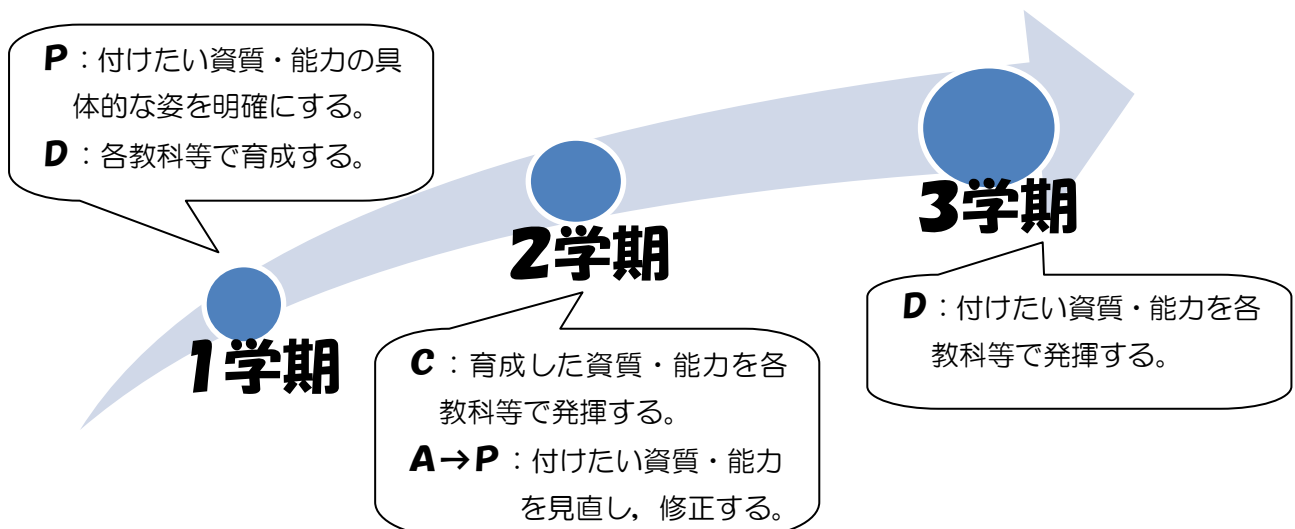
(1) 羽咋小授業スタイルの確立



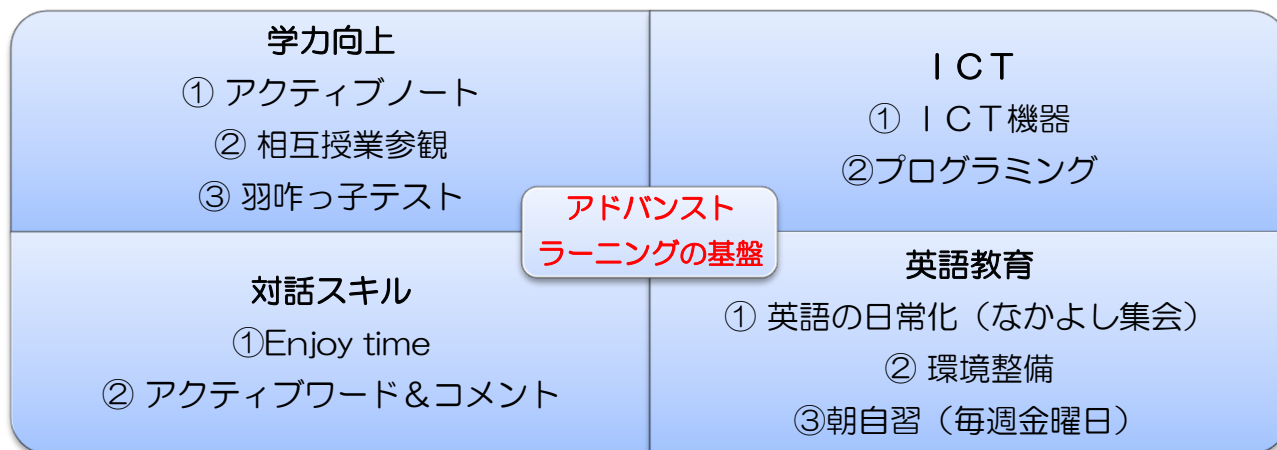
(2) 付けたい資質・能力の具体的な姿

付けたい資質・能力を各教科及び各種活動のねらいに沿って、より具体化させる。

(3) 付けたい資質・能力のPDCA「ハピネス・カリキュラム」イメージ



2 アドバンスト・ラーニングを支える基盤づくり



3 指導改善を進める体制づくり

(1) 低・中・高学年部会による授業づくり（学びの指針1, 2, 3）

段階的に3つの資質・能力を育てることで、ハピネス・カリキュラムを推進する。

(2) 4つの推進委員会による基盤づくり（学びの指針4, 5, 6, 7, 8）

4つの推進委員会を連動させることで、組織的に基盤づくりを行う。

(3) 校内研修会（OJTを含む）の実施（学びの指針10, 11）

3つの部会と4つの推進委員会の横のつながりを保ち、共通理解を図るための校内研修会を積極的に行う。

若プロとの関連を意識しながら、研修を行う。

(4) 小中連携や企業連携（学びの指針10, 12）

羽咋中やICT関係における企業と連携を図り、指導改善や環境整備に努める。

(5) 校長室だよりや授業参観等による保護者・地域との連携（学びの指針9, 10, 12）

定期的に発行する通信や学校報、ゲストティーチャーを招く道徳の授業参観、保護者へのアンケート調査等、地域に開かれた学校を目指す。

V 研究の検証について

1 学びの力を高める授業の検証（アクライズ）

(1) アクライズ

本校独自の授業検証システム「アクライズ」では、1時間の授業の中で、教師や児童の発言回数、思考の時間を1分毎の時間軸にそってプロットし、授業改善に生かしている。加えて授業のアクティブ性に加え、ねらい達成に向けた教師の手立てが有効であるか（「イイねポイント」）を分析している。

今年度は、教師の発言を「発問」と「指示」に分類し、授業を検証してみる。

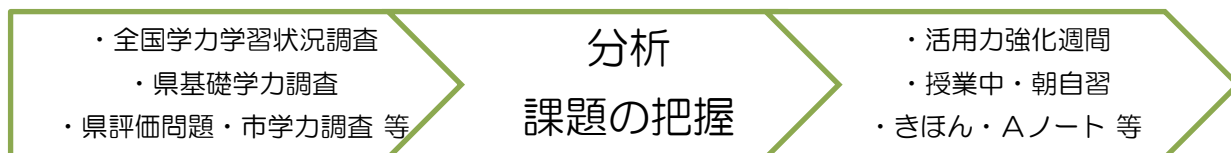
アクライズ①「教師の発言の分析」
「発問」と「指示」に分類しながら検証することで、児童との関わりを見る。

アクライズ②「達成率」
確認問題やアンケート調査を行い、ねらいを達成していたかを見る。



アクライズ③「イイねの集計」
教師のよい手立てを集計しグラフ化することで、プロット表との相関関係を見る。

(2) 学力テストの分析



2 アドバンス・ラーニングを支える基盤づくりの検証

➡ 学習アンケートによる変容の分析（前年度と同様のアンケートを使用）

3 指導改善を進める体制づくりの検証

➡ 学力向上ロードマップの実施状況の分析